



【1】 一種研開催報告

2024年10月にアクロス福岡(写真1)にて第一種A・P研究会が開催されました。初日の10月16日午前中には、初のIEEE Malaysia AP/MTT/EMC Joint Chapterとの交流セッションが行われ、4件の発表がありました。また、二日目の17日には6回目となる企業・学生交流セッションが開催され、学生による65件、企業による18件、合計83件の発表が行われました(写真2)。さらに、特別講演が3件、チュートリアル講演が1件、一般発表が14件あり、合計107件の発表が実施されました。来年10月27日から31日にかけてこのアクロス福岡で開催予定のISAP2025にふさわしい、盛大なプレISAP2025となりました。

企業学生交流セッションでは、各学生の発表時間が2時間、一企業の発表時間は1時間20分となりました。参加学生は自身の研究成果と要点を分かりやすく伝える努力を行い、また企業や聴講者から寄せられた質問やコメントなどを通じて、自分の研究における優れた点や改善が必要な点をより詳細に把握し、研究への理解を深める貴重な機会となりました。

企業の参加者は、学生の発表に熱心に耳を傾け、質問やコメントなどで積極的にフィードバックを提供し、各発表に対して慎重に評価しました。さらに、企業参加者はポスターセッションで、会社の業務内容や研究状況を詳しく説明するなど、参加する学生も会社の研究について詳しく理解できる素晴らしい機会となりました。

【2】 特別講演とチュートリアル講演

初日の16日には、IEEE AP-S Tokyo Chapterが主催する特別講演「八木・宇田アンテナの発明とUHF帯長距離通信への応用」が東北大学の澤谷邦男名誉教授により行われました(写真3)。

八木・宇田アンテナの発明は、東北大学の理念の一つである「実学尊重」を体現しており、発明から100年経った現在も、そのシンプルさと高性能から無線通信業界で愛され続けています。また、1995年にはアジア初のIEEE Milestoneとしても認定されました。

17日には、IEEE AP-S Fukuoka Chapterが主催する「超広帯域レーダ応答のパラメトリック表現とそのターゲット識別・同定および非破壊診断への応用」と題して特別講演が行われ、熊本大学の西本昌彦教授(写真4)が詳細に説明されました。



写真1 アクロス福岡



写真2 企業・学生交流セッションの様子



写真3 東北大 澤谷邦男名誉教授の特別講演



写真4 講師熊本大 西本昌彦教授(中)
九州産業大学 松岡剛志准教授(左一)
A・P研究会委員長 榊原久二男教授



写真5 横浜国立大 新井宏之教授(左一)
A・P研究会委員長 榎原久二男教授(右一)

岐阜大学の久武信太郎先生により「光波を用いた広帯域ミリ波・テラヘルツ波計測技術」についての講演が行われました(写真6)。

【3】懇親会と学生ポスター発表授賞式

ポスターセッション後には懇親会が開催され、100名を超える参加者が集まりました(写真7)。昨年のポスターセッション後に行われた懇親会の参加者数82名を上回り、これまでで最大の参加者数となりました。

また、和やかな雰囲気の中で企業の参加者による評価に基づく学生ポスター優秀発表の授賞式も行われ、さらに盛り上がりを見せました。受賞された皆様、おめでとうございます(写真8)。

【4】ISAP2024について

11月4日から11月8日にかけて、ISAP2024が韓国・仁川のソンドコンベンションセンター(写真)で盛大に開催されました。



写真9 ISAPの旗引き継ぎ式

ISAP2024 チェア Young Joong Yoon 教授(左一)

ISAP2025 チェア 陳強教授(中)

ISAP2025 幹事 有馬 卓司教授(右一)

また、同じく17日には、A・P研究会主催で、横浜国立大学の新井宏之先生による「AP研との40年」と題した講演が行われました(写真5)。初めてのA・P研究会での思い出や、40年間にわたる研究課題が紹介され、学生時代から研究会の牽引者として歩んできた軌跡が語られました。50分間の講演では、先生の40年間の研究のごく一部しか触れられませんが、今後の機会にさらに詳しいお話を伺えることを期待しております。

さらに、18日午後のA・P研チュートリアル講演では、岐



写真6 岐阜大 久武信太郎教授のチュートリアル講演



写真7 A・P研究会懇親会の様子



写真8 優秀ポスター発表者

A・P研委員長榎原教授(右一)・副委員長袁(左一)

ISAP2024には、24か国から延べ657名が参加しました。参加者数は、韓国310名、日本154名、中国60名の順でした。

個人的に、今回のISAP2024で特に

印象に残ったのは、企業展示会やポスター会場で行われたドローン撮影、各セッション会場で座長の名前が名札として表示されるなど、細部へのこだわりです。また、現代的で迫力ある会場や、ベテラン・若手の研究者による発表も非常に印象的でした。

11月7日の夜にはバンケットが開催され、ISAPの旗が、2024のジェネラルチェアから、2025のジェネラルチェアである陳強先生に引き継がれました(写真9)。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微(東北工業大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

